

三國分立図	12
年表	14

## 第一章 自分を高める言葉

人の小なるとき了々なる者、大なれば今だ必ずしも奇ならず	18
悪小をもってこれをなすなかれ、善小なるをもってなざるなかれ、これ賢これ徳、よく人を服す	20
人の欲は限りないもの、すでに醜を得て、蜀を望むか	22
君に仕えて、その本を忘れざるは、天下の義士なり	24
七步吟	26
吾、おもえらく、大弟ただ武略あるのみと、今に至りて学識英博、また呉下の阿蒙にあらず	28
その上なるものを取らば、貪となさん、その下なるものを取らば偽となさん、故にその中なるを取れり	30
怒りて容を変えず、喜びて節を失わざるはもとよりこれ、もつとも難しとなす	32
自らその綬を解きてもって督郵の頸に繋ぎ、これを縛して樹に著け、鞭杖百余下、これを殺さんと欲す	34
髀裏に肉のしよずるを見て慨然として流涕す	36

丁儀は、好士なり。たといその両目言いたりとも、なお女を与うべきに、なんぞいわんやただに眇をや	38
天の与うるを取らざれば、悔ゆともおもうべからず	40
英雄とは、胸に大志を抱き、腹中に大謀を秘め、宇宙をも包む豪氣と、天地を吞吐する志を抱く者のこと	42
狼子野心	44
登龍門	46
螭螂の斧を以て、隆車の隧を禦がんと欲す	48
嬰兒の病をもって、その会を失う	50
コラム「正史三國志」とその著者、陳寿	52

## 第二章 勝負ごとに挑むとき

苦肉の策	54
治世の能臣、乱世の姦雄	56
兵勢一たび交わらば、卒に解くを得ざらん	58
七縦七禽	60

用兵の道は、心を攻むるを上とし、城を攻むると下とす……

臥竜鳳雛……

これは大事なり、倉卒にすべからず……

郭公が鵲の巢を奪つ……

遲疑して断せず……

無能を示して、もってこれを安んずべし……

みな、これを頭任に処し、その器能を尽くさしむ。有志の士、競いて勧めざるはなし……

天下三分の計……

七星壇を築き風を祈る……

破竹の勢い……

軍事には大要五あり。よく戦わば戦うべし。戦う能わざれば守るべし。守る能わざれば走るべし。

余りの二事は、ただ降と死あるのみ……

空城の計……

死せる孔明、生ける仲達を走らす……

逸をもつて勞を待つ……

コラム 民衆がこよなく愛した「三国志演義」……

### 第三章 組織のなかで生きるとき

諸葛孔明をして在らしむと雖も 亦た之を輔けて久しく全くする能わず 何ぞ況んや姜維をや……

我、人に背くとも、人の我に背くこと許さじ……

子龍は我を捨てず……

その長ずるところを責び その短なるところを忘る……

前途に梅林あり……

僕、書生といえども、命を主君に受く……

性度弘朗、仁にして断多く、俠を好みて士を養い 始めて名を知らるること、父兄にひとし……

君が臣を選ぶのみにあらず、臣もまた君を選ぶ……

語言少なく、善く人に下り、喜怒は色に表わさず……

それ王業を立つる者は、用つるところ一にあらず……

北は曹操にあたり、東は孫権と和す……………112  
勲勞、賞すべきには千金をも吝しまず、功なくして施しを望むには分毫も与えず……………114  
士元は百里の才にあらざるなり……………116  
その譚を美にせざれば、すなわち声名、慕企するに足らず 慕企するに足らざれば、善をなす者少なし……………118  
知りていまだいわず、もって己が過ちとす……………120  
矛をさかしまにして、柄を相手に与える……………122  
変に応じ略を將いるは、その長ずるところにあらざるか……………124  
武を統べて師を行るに、大信を以て本とす……………126  
良禽は木を選ぶ……………128  
漢室はまた興すべからず 曹操はにわかを除くべからず……………130  
コラム 江戸時代に流行した、三國志……………132

#### 第四章 リーダーの心得

狼を除いて、虎を得る……………134

平らかなるを治める者は仁義を先にし、乱れるを治める者は権謀を先にす……………136  
三顧の礼……………138  
水魚の交わり……………140  
曹操を迎うべしというものは、この机と同じからん……………142  
大業をなすは、必ず人をもって本となすべし……………144  
もし嗣子、輔くべくんばこれを輔けよ もしそれ不才ならば、君、自ら取るべし……………146  
不臣の礼……………148  
泣いて馬謖を斬る……………150  
笑語をよくし、性は闊達聴受、人を用うるに善し……………152  
軍を御すること三十余年、手に書を捨てず 昼はすなわち武策を講じ、夜はすなわち経伝を思ふ……………154  
他人の商度、人の意の如きは少なし……………156  
三軍は將をもって主となす 主衰うれば、軍、奮意なし……………158  
狼子、養うべからず、のち必ず害をなさん……………160  
天に二日なく、一国に二君なし……………162

我、必ずこの羽葆蓋車に乗るべし……164  
法を制して自らこれを犯さば何をもって下を率いん……166  
葬おわらば、みな服を除け……168  
そもそも天下の大勢は分かれること久しければ必ず合し、合すること久しければ必ず分かれる……170  
コラム 滅亡の連鎖、三国時代の終わり……172

## 第五章 人物紹介

劉備	174
曹操	175
孫權	176
関羽雲長	177
諸葛孔明	178
司馬懿	179
孫策	180
張飛益徳	181
魯肅	182
呂蒙	183
曹丕／趙雲	184
呂布／陳宮	185
董卓／黄忠	186
周瑜／袁紹	187
陸遜／龐統	188
姜維／夏侯惇	189
劉表／劉禪	190